

KNOCK!!

家族で、「つくる」を楽しむ。好きになる。

起業家精神と共に つくる。

Mt.Fujiイノベーションキャンプ特集

起業にチャレンジ、エンジンが応援

一般社団法人 Mt.Fuji イノベーションエンジン代表理事 岩崎 甫 氏にインタビューさせていただきました

あなたのチャレンジが地域の課題を解決し、世界にイノベーションを起こすかもしれない

株式会社 山梨中央銀行 代表取締役頭取 古屋 賀章 氏にインタビューさせていただきました



起業家精神と共に つくる。

起業にチャレンジ、エンジンが応援

一般社団法人 Mt.Fuji イノベーションエンジン代表理事 岩崎 甫 氏にインタビューさせていただきました

あなたのチャレンジが地域の課題を解決し、世界にイノベーションを起こすかもしれない

株式会社 山梨中央銀行 代表取締役頭取 古屋 賀章 氏にインタビューさせていただきました

一緒に化学反応を起こしましょう

イノベーションベース Soie 金井 博 氏にインタビューさせていただきました

人脈とビジネス領域を広げるチャンスをつくる

Takeda Street Base 古屋 豪 氏にインタビューさせていただきました

誰もが豊かに暮らせる社会の実現に向けて

4U 藤野 宙志 氏・稲生 えり 氏にインタビューさせていただきました

「誰か」の「何か」が交差し実現する機会を提供する

CROSS BE 桐山 祐輔 氏にインタビューさせていただきました

過去イノキャン出場者からの応援メッセージ

栗原 真希 氏・笹井 のの 氏・阿部 綾美 氏・松島 陸 氏にインタビューさせていただきました

イノベーションを覗いてみよう。スケジュールやMAP、事務局の紹介

成長、進化、出会い、感動に溢れるMt.Fujiイノベーションキャンプへの想い

株式会社スクーミー代表取締役 CEO 塩島 諒輔 から読者の方々へのメッセージです

スクーミーで自分のアイデアを形に

学校事例紹介「子どもたちが自分自身の学校生活をより良くするために IT を活用する活動

関西大学北陽高校・山梨県立甲府南高等学校理数科・長野県茅野市立北部中学校で行った授業の様子を紹介します

地域にない「子どもたちの遊び場」と「IT教育の学習機会」を同時に解決する仕組みの

山梨県立甲府第一高等学校探究科 2年生のチームの様子の報告をします

ぼくのスクーマーズライフ

スクーミーでの活動の様子をスクーマーズの「TERU」くんインタビューさせていただきました

起業家精神と共に つくる。



ぜひ楽しんでチャレンジしてください！

楽しむことが一番。

もちろん結果を狙って周到な準備をする必要はあるけれど、
自分の考えていることを発表できることだけでも幸せなんです。

そういった場はなかなかないと思います。

そんな場を用意します。

一般社団法人 Mt.Fuji イノベーションエンジン 代表理事
山梨大学 副学長 岩崎 甫 氏

特集ページ 起業にチャレンジ、エンジンが応援 より抜粋

起業にチャレンジ、エンジンが応援

一般社団法人Mt.Fujiイノベーションエンジン代表理事
山梨大学 副学長 岩崎 甫 氏



プロフィール

山梨大学副学長
(融合研究臨床応用推進センター長)
1973年に東京大学医学部卒業後、同大附属病院にて10年間務める。1983年に山梨医科大学にて消化器外科医として勤務。1993年から民間企業にて医薬品開発に18年間携わる。2011年に再び山梨大学に戻り、2015年から副学長を務めている。

起業家精神と共に つくる。

新しい選択肢をつかむ機会に
Mt.Fujiイノベーションエンジン(以下イノキャンという)は、起業を志す多くの方々に経験者によるメンタリングを通してプランをブラッシュアップして、発表する場を提供しています。このイノキャンを活用することにより、支援する多くの方々とネットワークもでき、起業の可能性を高め、その結果として山梨の活性化にも繋がると期待されます。ただ、このイノキャンは9月に実施する年1回のイベントですので、継続的な支援を可能とする仕組みが必要と考え、Mt.Fujiイノベーションエンジンを作りました。このイノベーションエンジンでは毎月起業に関するトピックを語り合うサロンを開催していますが、一番大きな事業はイノキャンで最近では高校生に起業をチャレンジする「Inno」事業も始め、今年には中学生にまで広めています。このように若い方々に対しても、自分で見つけ出した答えのない課題を追求してみる姿勢を後押しする環境ができてきています。今回のイノキャンでは山梨大学が会場となるため、

これは大学にとってもチャレンジと言えるのかもしれませんが。ぜひ多くの学生の方々にもイノキャンに関わっていただきたいと考えています。今やりたいことが見つからなくてもいろんなところに行つて見聞を広げることが大事だと思います。

おもしろい山梨、チャレンジできる山梨

イノキャンは甲府で開催していますが、全国どこからでも参加でき、起業の場としては山梨に拘りません。ですが一番はこの活動を通じて山梨県の活性化を図れたらと考えています。山梨は豊かな自然に恵まれており、東京や横浜など関東の大都市に比較的近いという利便性も高く、さらに発展する余地もあります。そういった意味で山梨は魅力のある場所ですが、豊かな自然だけでなく、多くの人を引き付けることができる異なる魅力をつくらないといけないと思います。特に若い人がおもしろい場所だと思う環境や文化をつくっていくことができないと、人口の減少を止めることも

難しいし、地域の盛り上がりも期待できません。新しいことをしたい人にとつてフレンドリーな地域にしたいと思つています。チャレンジできる環境があり支援してくれる人がいるということがわかれば、山梨をおもしろいと思ってくれる人が増えていくのではないのでしょうか。

失敗を乗り越えるために 必要なものは、熱意と人

起業は興味あふれたチャレンジングな事業ですが、成功が必ずしも約束されているわけではありません。どのようにして自分のアイデアが魅力あるものとして多くのの人からの理解と支援を得ることができのかが大切です。最終的には、その人の熱意が一番大きな成功の要素になります。成功した事例が取り上げられることが多いのでそこに焦点が当たりがちですが、うまくいかないことも多くあります。そのようなことを経験して次へ進んでいく。失敗は「失敗」ではなく「ラーニング」であると捉えれば良いと思います。起業には様々な面からの周到な準備

が必要で、個人の頑張りだけでは限界が存在することもあります。そのような時に相談できる人がいる。その人ができなくてもできる人を紹介するよとなる、そういった良い人のつながりが必要です。人との良いつながりを持ち、その中で自分の夢をどうやって叶えていくかが重要なのです。イノキャンには経験者によるメンタリングがあり、様々な方々から様々な意見やアドバイスが受けられます。これはイノキャンのいいところ、価値であると言えます。そんな一つの場として、イノキャンがあれば良いのではないかと私は思います。

Mt.Fujiイノベーション エンジンに応募する方へ

ぜひ楽しんでチャレンジしてください！楽しむことが一番。もちろん結果を狙って周到な準備をする必要はあるけれど、自分の考えていることを発表できることだけでも幸せなんです。そういった場はなかなかないと思います。そんな場を用意します。

あなたのチャレンジが地域の課題を解決し、世界にイノベーションを起こすかもしれない。

株式会社 山梨中央銀行 代表取締役頭取 古屋 賀章 氏



プロフィール

株式会社山梨中央銀行
代表取締役頭取。
1986年同行に入社。
東京支店に配属されキャリアをスタート。
営業統括部長や東京支店長などを経て
2021年に専務に就任。
2023年6月より現職。
甲府市出身。

銀行の中からも、イノベーションを

が銀行の立ち回りだと思っている。イノキャン開催時だけ盛り上がりすぎてそれで終わってしまったように後悔しているのが銀行の役割だ。私たちは「金融」という観点からさまざまな事業の形態を見てきたため、積み重ねてきたその経験から、参加者に何かお伝えできるかもしれない。イノキャン後に実際に事業化していく上で必要な融資や、他者とのつながりも支援してあげたいと思っている。

イノキャンに出場するスタートアップの方々の中には、山梨県内外の企業との接点をつくっていきたくて思っている人も少なくないだろう。フラットな関係で一緒に良いものをつくらうと思えるような関係を、銀行がハブとなって生み出せないかと考えている。2022年7月に甲府にオープンした「Takeda Street Base」が活動の拠点となれば良いなと思う。ここに若い人、起業した

い人、アイデアを持っている人など熱量の高い人たちが集まり、化学反応を起こしながら新しい起業家が出てくれば嬉しい。

我々銀行の中からも、もつとイノベーションを起こしていこうという思いから「経営企画部DX・イノベーション推進室」という部署を2022年の月に立ち上げた。銀行としての新規事業を生み出すためにイノベーション的な人材の育成にも取り組んでいる。これからは山梨から新しい事業をどんどん起こしてもらえよう、私たちも共に伴走しながら思っている人を応援していきたい。

Mr.Fujiイノベーション キャンプに応募する方へ

私も昔、起業をしたいと思ったこともあったけれど勇気が出せなかった。今こうしてリスクを取ってでも事業を起こそうとしている人たちは、本当にすごいと思う。そこに敬意を表する。だからこそ、そういう人たちにさまざまなことにチャレンジしてもらいたいと思うし、今取り

地域の未来へ羽ばたけ！ Mr.Fujiイノベーション キャンプへの期待

山梨はもともと重工業が盛んなわけではなく、土壌が特別豊かな地域でもないから、自分たちで事業を起こしていくことが大切だと思っている。これまでも「アントレプレナー」と呼ばれる起業家を輩出してきているが、これからは若い人を中心に新しい事業を山梨から起こし、この地で会社を大きくしてくれる人が増えたらと願っている。

地域の可能性を広げていく上でMr.Fujiイノベーションキャンプ（以下、イノキャンという）は重要な機会である。主催者たちが情熱を持って取り組む姿が開催当初から印象的で、パワフルな方々との出会いは、銀行にとっても新鮮なこと。こういった人たちがいないと、物事はなかなか動いていかない。経験豊富な運営陣やメンター陣の雰囲気づくりによって、参加者みんなが共に「チャレンジしよう！」と気持ちを奮い立たせられるのは、イノキャンならではの強み。

そしてそこを伴走、協力するの組んでいるアクションが地域の課題を解決し、日本から世界全体へのイノベーションにまでつながっていくことだと思っています。

微力だが支援できるノウハウやつながりは用意してあるので、そういう人たちにぜひイノキャンなどの場へ飛び込んでいただきたい。応援していますし、私たちも頑張ります。

起業家精神と共に
つくる。

一緒に化学反応を起こしましょう

イノベーションベースSoie 金井 博 氏

「Well-being」イノベーション キャンパスに応募する方へ

ぶことを目的とした未来デザイン
カデミーを企画・運営しました。次
に学生アパルトが立ち並ぶ学生街の
真ん中の建物で、社会人と学生の集
える場所としてSoieを立ち上げま
した。Soieは「コミュニティオフィス」
という、新しい働き方を掲げていま
す。学生にとっては起業を応援して
くれる大人が近くにいる環境であ
り、反対に社会人にとっては学生と
も他の企業とも交流を持つことが
できる環境です。ぜひコミュニティオ
フィスで働くという新しい選択肢を
考えてみてください。

参加することだけで既に一歩踏み
出していて、それだけでも敬意を
表したいです。それぞれの目標があ
ると思います。自分自身がやろうと
思うことは必ずできるので、自分を
信じてほしいです。目標を実現する
ために必要なお金・知識・人脈はイ
ノキャンにあります。せつかく山梨
に来てくれる・いてくれるというこ

起業家精神と共に
つくる。

とはとてもありがたく、一緒に化学
反応を起こし、新感覚で社会課題
を解決していきましょう。イノキャ
ンでは全員が仲間です。「若者が活
きる社会」「若者を活かす社会」に
なっていきたいという想いの中、次世
代を応援したいです。



Soie (ソワ) Silk garden



Soie(ソワ)は働く場そのものが「Well being」をコンセプトに、新しい働き方を実現できるワークスペース。人とつながり自然とつながるコミュニティオフィスです。コワーキングスペース、シェアオフィス、住宅兼オフィスと様々な働き方を応援します。敷地内には、付帯施設としてカフェ、ジム、セミナールーム、ゲートルーム、大浴場を完備しています。また約100名の学生が住んでいるので、企業間のみならず、学生との出会いも広がります。

出会いと交流を楽しんで
ください

私たちSoieとイノキャン事務局の想いが合わり、イノキャン中に皆様が交流することができるスペースとして場所を提供することになりました。参加者の皆様とメンターの方々が夜から朝まで活動できる環境にします。とにかく話す機会がここにあるので、自由に使ってください。施設内のいろいろな場所です話がどんどん生まれてくるという環境になることを期待しています。Soieにとってもイノキャン中は特別な期間になると思います。出会いと交流が増えていくことを楽しんでください。

コミュニティオフィスとい
う新しい働く場を

コロナの影響で学生が社会と関わる機会が少なくなりました。世の中で、自己分析ができない学生を間近で見えており、社会と交流ができる場所をつくりたいという想いがきっかけでした。戸田達昭氏のご協力のもと、まず始めに実践ベースで学

プロフィール

山梨県出身。大学卒業後、広告代理店（株）東急エージェンシーに勤務、7年の東京生活を経て帰郷。現在代表を務める

（株）山梨社に勤務しながら、（社）甲府青年会議所に入会、2008年には理事長としてまちづくりに携わる。また副社長として（株）フォネットを起業し10年間勤務。学生寮「シルクガーデン」、コミュニティオフィス「イノベーションベースSoie」、頑張る学生と社会がつながるコミュニティ「まゆCafé」を現在展開中。



人脈とビジネス領域を 広げるチャンスをつくる

Takeda Street Base
山梨中央銀行 経営企画部DX・イノベーション推進室 古屋 豪 氏

Met・Fusionイノベーション キャンパスに応募する方へ

デジタル技術の進歩により、今では自分の手で世の中を変えることができる世界が広がっています。参加者の皆様にはぜひその一人になっていただきたいです。そのチャレンジ

二つ目は、学生を対象に学生時代に身に付けたお金に関するセミナーと、働き方が多様化する中で就職する人・起業する人、双方に役立つ事業アイデアの生み出し方を学ぶワークショップ。

三つ目は、スタートアップの方々と県内外の企業の接点が生まれるイベントを考えています。山梨県内で事業を行う創業から日が浅い企業様には、取り組み内容を広く発信する場を提供させていただきます。また、視聴参加した県内外の企業様にとっては自社の強みと一緒に掛け合わせ、さらなるビジネス領域拡大のチャンスになるような場を提供します。

に対し私たち山梨中央銀行は、さまざまな知識やノウハウを持っている方々をおつなぎするなど銀行としてできる支援をしていきたいと思っています。

起業家精神と共に
つくる。



プロフィール

2002年山梨中央銀行に入行、約2年勝沼支店にて預金後方事務、渉外係として勤務。その後、銀行のシステムを管理・統括する本部部署にて約16年にわたり融資関連のシステム導入・開発を経験。2021年7月に現在の所属部署である経営企画部へ移り、銀行内外のDX推進に取り組む。



Takeda Street Base



Takeda Street Baseは、2022年7月にオープンし甲府駅北口から武田神社方面に進み、武田通りと山の手通りの交差点に山梨中央銀行の関連会社があるビルの1階で運営。一つのテーマについてみんなでディスカッションしたり、地域の方が主催するイベント・セミナーなど貸し切り利用もできる施設となっている。

未来のビジネスを共創していく

山梨中央銀行は、さまざまなプレイヤーの方と共に地域の社会課題をデジタル技術で解決していく「地域DX」に取り組んでいます。この「地域DX」の活動拠点として2022年7月にTakeda Street Baseをオープンしました。Takeda Street Baseでは様々な方との交流、新たな事業領域の拡大につながるチャンス創出、人としての成長につながるといった価値を提供していきたいと考えています。そして共感によりつながった仲間と共に、地域の社会課題解決につながる未来のビジネスを創りあげたいと考えています。

銀行として臨むイノベーションWeek

銀行として、「①お金に関すること」「②企業間の接点創出」という役割を担い三つのイベントをご用意しました。

一つ目は、家計を守る女性の方達を対象に、家計の節約など生活に関したお金の話をする資産形成セミナー。

誰もが豊かに暮らせる社会の実現に向けて

4U 藤野 宙志 氏 ・ 稲生 えり 氏

のチャンスでその棚卸された知見が次の設計段階で一番大事な材料になります。実践に勝る学びはないです。これまでコロナ禍で準備はしていても、なかなか離陸できない期間が続いてきました。今回のイノキャンで新たな人とのつながり、実際の行動、刺激、きっかけが生まれ、飛び立つ瞬間になることを期待しています。

新しい出会い新しいプロジェクトが生まれるイベントに

4Uでは、甲府市丸の内という利便性の良いロケーションを最大限に活用して、二つのイベントを企画しています。一つ目のイベントは、徒歩圏内にある地域の行政・自治体・金融・メディアといったパワフルな人達を絡めたイベントとして、山梨県が抱える課題と解決策を出し合い、企業や専門家を巻き込み、持続可能な解決を目指す長期プロジェクト「地域経済エコシステムの形成に向けて開催する」第4回山梨県活性化フォーラム（9月6日（水））です。二つ目のイベントは、行政そして資金、ソ



4U 株式会社グッドウェイ こうふくらし研究所



4U（フォーユー）は株式会社グッドウェイ・学生団体トップファン・こうふくらし研究所が、山梨県活性化プロジェクト、新事業創出プラットフォームFFLabと連携し、山梨をもっと楽しくワクワク、誰もが豊かに暮らせる社会の実現に向けた活動を推進するための場として立ち上がりました。山梨を構成する企業・団体や個人のトップファンを増やし共感の連鎖を広げ、デザインを軸に発見・発掘・発信・提案・実行する活動を推進したいと考えています。

起業家精神と共に つくる。

自由にチャレンジできる
空間に

若い人や学生さんと共にいることが、これからの時代に必要なもの4Uに欠かせないものであると思います。学生さん達がクラウドファンディングを通じてつくり上げた少し手づくり感・現場感のあるような完成されていない空間が4Uの特徴とも言えます。制約や制限を感じず発想が生み出され、自由にチャレンジできる場になったら嬉しいです。自分一人ではなく仲間と一緒にチャレンジしてみることや、それを実践できる場所として活用して欲しいです。同じような目的を持つ他のスペースとも、お互いの持ち味を掛け算をして、横のつながりをより強くしていきたいと考えています。

長い滑走路から飛び立つ
瞬間に

アイデアを持っていても、自分達だけではわからないことだらけだと思います。プログラムとして型になぞらえる形で自己実現をしてみると、学びもフィードバックも振り返りもできます。どんな結果でも、次

ーシャルインパクトの観点からそれぞれゲストを招き「社会的インパクト時代がもたらす、地域×スタートアップの可能性」(9月13日(水))を考えています。イベントは常にゴールではなく起点であり、そこで出会った人と個別のプロジェクトが生まれていくような設計と実践が大切だと思います。

Mt. Fujiイノベーション キャンプに応募する方へ

4Uはあなたのための場所です。きつと活用の仕方や新しく生まれる出会いなど、ここにしかないものがあると思います。一緒にここでワクワクを共有しましょう。また会話の先にどんな展開や膨らみが起こるか全くわからないという不安は学生も社会人も一緒です。どんな声をかけてつながりを広げて欲しいです。

プロフィール

藤野 宙志 氏

山梨県出身。大学卒業後、広告代理店（株）東急エージェンシーに勤務、7年の東京生活を経て帰郷。現在代表を務める

（株）山梨社に勤務しながら、（社）甲府青年会議所に入会、2008年には理事長としてまちづくりに携わる。また副社長として（株）フォネットを起業し10年間勤務。学生寮「シルクガーデン」、コミュニティオフィス「イノベーションベースSoie」、頑張る学生と社会がつながるコミュニティ「まゆCafé」を現在展開中。

稲生 えり 氏

2017年にパートナーと山梨県甲府市へ移住。「こうふで、こうふくに、くらす＝こうふくらし」をコンセプトに、デザインを軸に活動する、こうふくらし研究所を始動。2019年より山梨県活性化プロジェクトに参画。2021年より4Uの立ち上げに参画、2022年グッドウェイ甲府事務所所長に就任。



「誰か」の「何か」が交差し 実現する機会を提供する

CROSS BE 桐山 祐輔 氏

チャレンジできる機会に

イノキャンは、運営やメンターの方々と関係者様との関わりによってチャレンジできる機会です。山梨からおもしろい人材が発掘されることを期待しています。そしてCROSS BEでもイベントを開催し、イノキャンWEEKの拠点として盛り上げたいと考えています。イベント内容としては、過去のイノキャンに出場し現在も山梨で活躍されている経営者の方々とトークイベントです。イノキャンに出場したことによって得られたこと、実現できた成果を主に、数年経過し今想うことや今後の展望についてを深掘りして聞いていきます。話題となるテーマを決め、参加人数により1対1もしくはファシリテーション形式での全体トークセッションを加える予定です。

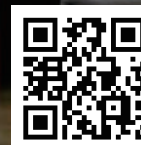
MAN・FUTUREイノベーション キャンプに応募する方へ

イノキャンに参加することは、人生を決める上で必ず大きな出来事になると思います。起こる出来事や出会う感情すべてを楽しめるように応援しています！

起業家精神と共に
つくる。



CROSS BE



2020年4月オープン、広くゆとりのあるスペースでビジネス、勉強、交流と様々な目的を持った人たちが利用しています。移住やUターンなどで山梨に来た人同士の交流が盛んで、山梨の人の繋がりを作りたい人の来店は大歓迎です。副業や独立、開業の支援もしているので、事業を始める準備をしている人や創業間もない人たちが協業したり情報交換したり、日常的に賑わいのある空間となっています。

CROSS BEでつながる きっかけをつくりたい

初めて山梨に来た時に誰でも参加できるセミナーやイベントがないことに驚き、学びや交流の機会はどこにあるのか、情報が得られる環境にしないと東京に出てしまう人がもつ増えるのではないかと感じました。しかし山梨にも活躍している人レベルの高い人・実力のある人がたくさんいて、情報を得ることも情報をつくった人と直接つながることもできることを知り、つながるきっかけをつくるためにコミュニティづくりを始めました。最先端技術や情報を本当に知りたい人は、今の時代ではいくらでもオンラインで見ることがができるため、逆に常に会っている人の量を増やした方が有益な情報を拾うことができると思います。今はつながることに慣れていないだけだからいっぱいやる、誰が興味あるかわからないことをいっぱいやる、それが誰かにとつて何かのきっかけになるかもしれないと思って活動しています。

プロフィール

静岡県浜松市出身。飲食・法人のオフィスソリューション・建築・不動産業を経験し、2016年よりコワーキングスペース事業に携わる。2019年に独立し、新たな地域貢献事業を求める株式会社ダイタと締結し甲府駅前でのコワーキングスペース展開。2022年4月に新たに法人を設立し、拠点づくり、コミュニティ立ち上げ支援、デザイン制作、副業支援によって地域課題の解決を目指す。





阿部 綾美 氏

関西大学のアントレプレナーアカデミー（現：HACK ACADEMY）に参加し、そのアイデアを元に2019年度スタートクラスに出場。現在はビジョナリーパワー株式会社就職し、イノキャンを作る側になる。

起業家精神と共に
つくる。

やりたいことをキラキラと語ってほしい

イノキャンで一番印象的だったことは、自分のやりたいことをキラキラと語って良いんだと感じたことです。やりたいことを語った時に大人が良いねおもしろいねと賛成と助言をしてくれるという環境は、素晴らしいと思います。これまでの学校生活で先生の問いかけに対して、おそらくこの返答が正しいだろうという

感覚が皆様あったと思います。ですのでイノキャンは、学生からすると初めて出会う不思議な空間かもしれません。

本選に出て終わってしまい何も賞が取れなくて悔しかった記憶があります。自分一人ではできないことがあると思知り、多くのコミュニティに参加するなど行動をし始めました。同じように皆様の何かしらのきっかけとなるかもしれません。

M+FCU:イノベーションキヤンプに応募する方へ

イノキャン中、つらいと感じるポイントがあるかもしれないですが、逃げないことです。きちんとメンターさんの話を聞いてみてください。いろんな方にそれぞれに違うことを言われて何が正解なんだろうかと悩んでしまうこともあるかもしれませんが、その中から自分の目標やつくりたい世界観により共感できるも

の選び、土台を固めるという捉え方ができるとアイデアが加速すると思います。また多くの方と話をすることがアイデアの言語化やプレゼンの練習につながるので、ぜひたくさん話しかけてみてください。

出場時のビジネスプラン

高齢者向けお散歩促進デバイスの作成



栗原 真希 氏

2019年自身も持つ骨疾患である「多発性外骨腫」にできる何かと本格的に模索し始める。より深い研究を求め2023年春より東京大学大学院 医学系研究科に入学。現在、外骨腫の治療薬開発に向けた基礎研究を行っている。

原点を見失わないという意識

私は自分から話しかけに行くことがとても苦手です。なおかつイノキャンでは当初プランさえもまともに書けない状態でしたが、勇気を出してメンターの方へ相談に伺うと真摯に向き合ってくださいました。実際キャン中は毎日プランを崩しては立て直しての繰り返しでしたがプランの軸である「病気に対してで

きることは何か」という想いだけは変わらぬままです。このことを今となって思い返すと、そのプランの試行錯誤が毎度私をスタート地点まで引き戻していたこと、またそのことが無意識的に自身への落とし込みの時間になっていたことで、原点から逸れずにいられたのではないかと感じます。

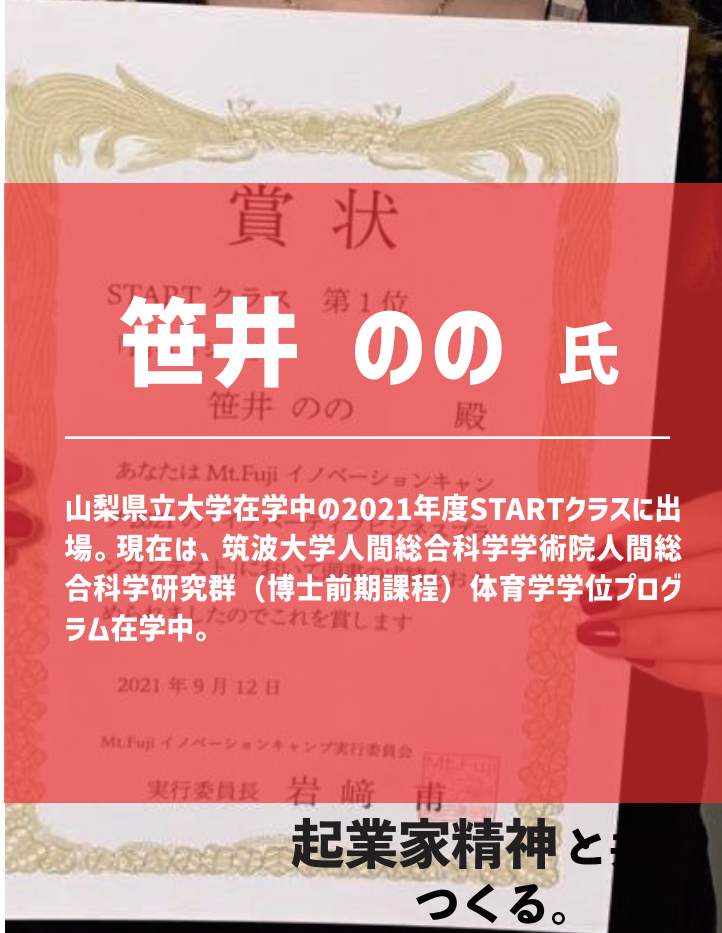
M+FCU:イノベーションキヤンプに応募する方へ

私はイノキャン出場後も引き続き、原点に立ち戻って自分には何ができるかと考え、根本的に病気を研究していくという道に今進んでいます。私がテーマとした医療系分野はマネタイズまでが難しいように、ビジネスコンテストでは敬遠しがちな分野は他にもあると思います。ただどのような方であれイノキャンでの

経験は、自分の思うビジネスを実現に近づける第一歩になると同時に、特にビギナーの方々にとっては自分が本当にやりたいことについて考える時間になると思います。ぜひ何にも臆することなく頑張ってください。

出場時のビジネスプラン

難病患者やその家族のための情報共有サイト



なぜ私がやるのか

イノキャン2日目の予選が一番印象に残っています。プランへの熱意やなぜ「私が」当プランを実施する必要があるのかという根本的な部分審査員に伝わらず、通過できませんでした。私が最も大事にしていることが伝わらず、とても悔しかったです。自分では当たり前となっておりあえて言葉にしなくても、聞き手に伝わるものだと考えていました。

しかし実際には言葉にしなくては伝わらないことを強く実感しました。プレゼンをする際には、今まで以上に聞き手に伝わる表現や伝え方を模索し意識しています。

また私は一人のメンターさんと深くお話しする機会をいただき、同じメンターさんにお世話になっただけで出場者のプレゼン練習を聞くことができませんでした。オンライン開催のため孤独感をとっても感じていましたがつらいのは自分だけではない、最後

まで頑張ろうという気持ちにつながっていました。

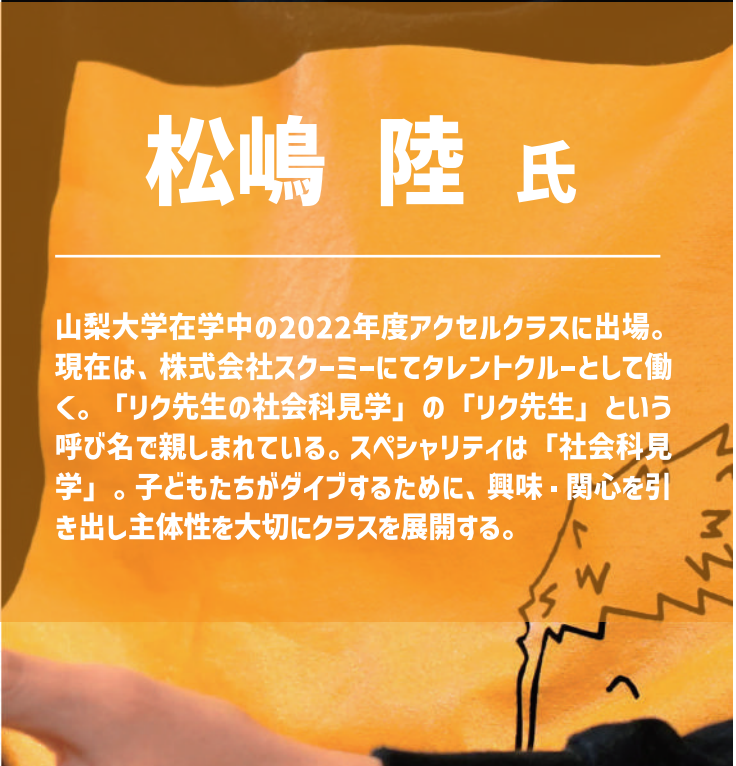
Mt.Fujiイノベーションキャンプに応募する方へ

一歩踏み出す行動力が非常に重要だと思います。大学の教授を通じてイノキャンの存在を知り、参加を決めました。さまざまな出会いや学びを得ることができ、出場前には考えてもいなかった現在の進路と目標が見つかりました。イノキャンに出

場するという一歩を踏み出すことができたため、今の自分があると思います。今でもイノキャンを通して知り合った多くの方から刺激を受け続けることによって、行動力を継続しています。

出場時のビジネスプラン

ストリートダンスのための機能性を重視した専用シューズ「踊るっシュー」の開発



松嶋 陸 氏

山梨大学在学中の2022年度アクセルクラスに出場。現在は、株式会社スクーミーにてタレントクルーとして働く。「リク先生の社会科見学」の「リク先生」という呼び名で親しまれている。スペシャリティは「社会科見学」。子どもたちがダイブするために、興味・関心を引き出し主体性を大切にクラスを展開する。

自分の価値を言語化する

私の学生生活では自分のやりたいうことに挑戦したり、自分の考えをアウトプットする機会は多くありませんでした。しかしイノキャンではいきなり自分のやりたいことを言語化し人に伝えることが求められます。そして「その課題は本当にあるのか」「なぜやりたいのか」「なぜ君がやるのか」「他の活動や企業との差は何か」など自分の考えを深掘りして

もらえる環境です。ビジネスプランに関わらず学生生活やこれからの人生においても、大切な考える力と伝える力が身についたと感じています。自分のやりたいことは何なのか、自分の価値はどんなものかを学生のうちから考える機会があると、社会人になっても自分を見失わずに過ごすことができるのではないのでしょうか。

Mt.Fujiイノベーションキャンプに応募する方へ

挑戦してみたいことがあるということは、素敵なことです。そして、そのアイデアに本気で向き合ってくれる方々と話をするができる機会は、当たり前前のことではありません。この機会を人生のターニングポイントにしたいだけだと思います。大切なことは、それを本気でやりたいと思うアツい気持ちだと思います。

ます。それに応えてくれる環境は用意されています。ぜひ、悔いのないように思い切った取り組みで欲しいと思います。

出場時のビジネスプラン

大学生と社会人のマッチング事業

アイデアと情熱だけ
持って出かけよう



イノベーションを
覗いてみよう



Mt.FUJI INNOVATION CAMP

Sep.14th - 17th 2023
at University of Yamanashi
www.y-startup.org/



ホームページはこちらから！
※最終日コンテストは申し込みのうえ観覧可能です。



	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
9/3 (Sun)					📍 よつちやばれ広場 オープニングセレモニー / 学生企画 FM FUJI企画 ラジオ放送							
9/4 (Mon)										📍 CROSS BE CROSS BE×イノキャン企画		
9/5 (Tue)										📍 TSB イノキャン企画 トロントと繋いでピッチ / TSB交流会		
9/6 (Wed)					📍 Cafe La Paix 甲府北口店 ゆるっと女性向けティータイムイベント Ladies Tea Time					📍 4U 山梨活性化フォーラム×4U 交流会		
9/7 (Thu)					📍 TSB TSBイベント スタートアップを繋ぐ							
9/8 (Fri)					📍 甲府市役所 甲府市企画 水素燃料電池に関する講演会					📍 CROSS BE CROSS BE 拠点交流会		
9/9 (Sat)	📍 東京ガス山梨 森のつみ木広場 やまなし水源地ブランド推進協議会とのコラボ企画				📍 東京ガス山梨 東京ガス山梨企画 / スクミ企画 エコクッキング ワークショップ							
9/10 (Sun)	📍 山梨県立図書館 ぼくたちの地球は、ぼくたちが守る。 スクミコンテスト葉月杯最終審査会				📍 山梨県立図書館 スクミ体験会 📍 イノベーションベースSoie 学生企画 サイエンスカフェ							
9/11 (Mon)					📍 TSB TSB企画 学生が知るべき資産形成事業アイデアワーク				(オンライン) 都市型フェスパートナーズとの交流企画			
9/12 (Tue)					📍 TSB TSB企画 資産運用セミナー-シュミレーション 主婦層向け							
9/13 (Wed)		LCCまちづくり甲府企画 まちなか空き物件見学会								📍 4U 社会的インパクト時代がもたらす “地域×スタートアップ”の可能性 世界に伍さないスタートアップ拠点都市へ		
9/14 (Thu)										📍 イノベーションベースSoie イノキャン参加者 交流会		
9/15 (Fri)										📍 YBS2階 YBS×docomo企画 ドコモのイノベーション体験		
9/16 (Sat)												
9/17 (Sun)	📍 山梨大学 Mt.Fuji Innovation Camp 2023 観覧受付										Soie交流会	

SCHEDULE

イノベーションを覗いてみよう



イノキャン Week は 2023 年に初開催となるイノベーションとスタートアップをテーマとした都市型フェスです。
山梨県の JR 甲府駅周辺。
北端はイノベーションベース Soie。
南端は甲府市役所で、徒歩 20 分圏内です。





たくさんの荷物を持って
今日はどこに行こう？



過去のイノキャン出場者が、今はなんとイノキャン事務局としてイベントを盛り上げていました！



何か道具がたくさん置いてある場所に遭遇！

びゃーん！



インターネット上の設備も、対面での準備も、どちらも完璧な用意で皆さんをお出迎えしたいと奮闘中でした！

リク先生の社会科見学

イノキャン事務局へ いざ潜入!!!



こんにちは！
クルーのリク先生です！
ねえねえ、イノキャンの裏側、気にならない？
今回は、イノキャンを支えているイノキャン事務局に潜入してきたよ！



どーん



実はリク先生もイノキャン出場経験があるんだ！
毎回レベルアップしていくイノキャンを楽しみにしているんだ。どんなことが起こるかワクワクする空間がここにあったよ！

パソコンに大事な資料たちが、多くの方々の協力のもと、開催まであと少し！

みんな、イノキャンで起業家精神と共に、
何をつくる？アイデアを形にしてみよう！



イノベーションベースSoieの運営をしている方との
打ち合わせに同席！



毎日どこかでイベントが行われるよ！

今回のイノキャンから、約2週間にわたる **イノキャンWEEK** が始まるみたい！
北端はイノキャン事務局のあるSoieから南端は甲府市市役所まで、すべて徒歩圏内でたくさんのイベントが開かれるそう。関わるみんなと事務局が想いを共有しながらつくっている姿がひしひしと伝わってきたよ。

成長、進化、出会い、感動に溢れる Mt.Fujiイノベーションキャンプへの 想い

起業家精神と共に つくる。

イノキャンと私

私が今の段階でイノキャンで成し遂げられなかったことは初期に実施されていた青少年センターに参加者・メンターの皆様がみんな同じところに宿泊する合宿形式のイノキャンに参加できなかったことと、イノキャンの最高の賞とされている「アントレプレナーシップ賞」の受賞ができなかったこと

です。これは狙って取れるものではない分、私にとつての2名の先輩起業家に話をされるたび、心の底から羨ましいと思っています。

そんなスクーミーと私自身をつくってくれたイノキャンに感謝の気持ちを伝えたいという思いで、この度、弊社の月刊誌でイノキャン特集を組ませていただきました。お忙しい中取材にに応じてくださった、一般社団法人Mt.Fujiイ

イノキャンでの目標

これからしていきたいこととしては2つあります。

1つ目は「メンタリング」です。イノキャンはメンターの皆様が本当に素晴らしく、何度も何度も心の支えになってくれる存在です。「元気にしているか?」「え、痩せた?」「スクーミーいいねえ」など声をかけてくださることはもちろん、事業の話やこれからの展開のことを相談させていただいたり、突然タックルをされたりすることはありますが、スタートアップの社長という立場にとつてはすべてが嬉しいことです。いつもありがとうございます。私もこんなメンターになりたい!という想いがある反面、やはり「まだ早い」という想いがあります。まずは事業を成功させ、そこで得られた知識を、お世話になったイノキャンで素晴らしいメンターの皆様と共に、参加者のメンタリングが恥じないようにできるようにするの

が私の夢です。今年の開催でも運営者としてイノキャンに参加したことのある運営者という立場で、運営や参加者のサポートを行っていきます。イノキャンでの立ち振る舞い方、発表に必要な装備品、マインド、メンターの皆様との関わり方。マニュアルに掲載されていないイノキャンの過ごし方を知りたい場合は、ぜひお声かけください。

2つ目は「更なるアップデート」です。関わる人が増え参加者の層も変わってきて、時代も変化している中で、イノキャン自体もどんどん変わっていく必要があると思っています。もちろん核である「イノベーション」という部分は変わりません。それを取り巻く環境や見せ方などを更にアップデートしていききたいです。事務局長の戸田達昭氏がメンタリングに専念できる環境をつくっていききたいと思えます。やはり次は、私を含め過去の参加者・メンターの皆様が

株式会社スクーミー 代表取締役CEO 塩島 諒輔

毎年開催されているMt.Fujiイノベーションキャンプ（通称イノキャン）にて、初回参加から4年越し3回目の出場である2020年、協創部門（現在のブース部門）で最優秀賞の受賞。そこから運営として関わり、リアル開催やコロナ禍でのオンラインでのイノキャン運営、東北や埼玉での運営にも関わり、イノキャンとの関わりは今年で6年目になる。

ノベーションエンジン代表理事岩崎様・山梨中央銀行頭取古屋様・イノキャンウィーク拠点の皆様・学生の皆様、ありがとうございます。本来であれば、全員のお話を記事にして取り上げたかったのですが、これはまたチャレンジしたいです。メンターの皆様への想いが強く、話していただく方を選ぶことは私にはできませんでした。

一丸となり、イノキャンを愛する世代が次をつくっていくべきだと思います。私自身も「イノキャン運営やっている場合じゃないでしょ?自分の事業に専念しなさい。」と言われないうち、まずは事業の成功をおさめ、イノキャンにより関われるようにしていきます。

今年には記念すべきイノキャン開催10年目の年です。山梨大学が会場となり、多数のイベントに参加できるイノキャンWEEKが開催されるなど新たな体制でのチャレンジです。そして山梨で一番イノベーションが起きるアツい場所イノベーションベースSoieがメンタリング会場として活用され、宿泊可能なテントも建てる予定です。更なる進化を遂げているイノキャンをぜひ楽しんでいただければと思います。

スクーミーで自分のアイデアを手元に

スクーミーの教材を使った授業では、単四電池1本で動く小型コンピュータ「スクーミーボード」と、視覚的で簡単にプログラミングができる「ブロックエディタ」を使って、学校で起こる様々な課題を解決していきます。

起業家精神と共に つくる。

子どもたちのプログラムで自由に動く

スクーミーボード



単四電池1本で動く小型コンピュータです。プログラミングをすることで動き、4つのポートにコネクタをさすことで温度や明るさなど様々な数値を測ることができます。コネクタの装着は全てmicro-USBであるため、誰でも簡単に抜き差しができます。

子どもたちの「つくりたい」を幅広く実現する

センサーコネクタ



温度や明るさ、距離を測ることのできるコネクタや、光ったり音が鳴ったりするコネクタ、計測した数値を表示することができるコネクタなど、100種類のコネクタがあり、学習内容や課題に応じて適切なコネクタを使うことができます。

子どもたちのアイデアを簡単に実現する

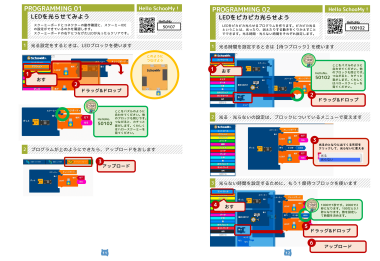
ブロックエディタ



ブロックを組み立てることでプログラミングをします。視覚的でわかりやすいため、誰でも簡単に、短時間でプログラミングができるようになります。また、順序立ててブロックを組み立てるため、「プログラミング的思考」を育むこともできます。

子どもたちの「困った」を解決する

ガイドブック



ボードやセンサーの使い方や、プログラミングの方法が書かれたガイドブックです。課題の分析方法や解決方法の考え方を学ぶことができる内容になっています。また、チームとして協力しながら課題を解決していくために必要なことも書かれたガイドブックです。

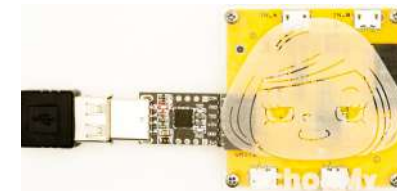
スクーミーボードでセンサーをつくる方法



つくりたいセンサー、解決したい課題が決まったら、スクーミーボードを準備します。



センサーをつくる上で必要になるコネクタを挿します。



プログラムを書き込むために、書き込み機をつけます。ここまでできたら、プログラミングをします。



プログラムのアップロードが終わると、LEDが光るようになります。

スクーミーブロックエディタでプログラムする方法



スクーミーブロックエディタを立ち上げます。プログラミングの準備はこれで完了です。



「アクション」のリストをクリックすると、コネクタのイラストと名前が書かれたブロックが出てきます。



「LED」のブロックをパズルのように組み立てることでプログラミングができます。



オレンジ色の「アップロード」を押すと、プログラムをスクーミーボードを書き込むことができます。

学校生活で、使わなくなったものたちが、大変身！

図画工作のときに、
あまった工作用紙

美化委員会のときに
作ったポスターの画用紙



クレソンの生育適温である温度になれば、色が変わるプログラムを自分たちで作りました

遠足のときに、冷たいものを入れていた発泡スチロール

スクーミーでは、eDIYに取り組んでいます

eDIYとは



生活の中で使わなくなったものに、テクノロジーを組み合わせ、自分たちの力で新しい価値を生み出していくことです。

現在、「持続可能な社会」をつくるために各家庭で取り組まれていることをはじめ、これからの未来をつくる世代にとっての教育効果も期待されていることから、全国の教育機関・自治体・企業に取り入れられている新しい考え方です。

eDIYの3つの約束



パートナーシップ

企業や自治体との関係を大切にしながら一緒にすすめていきます

今回は、地域の特産品の歴史や現状などについて、企業や自治体の方から直接話を聞くことで、理解を深めました



ファミリーシップ

家族や友人との関係を大切にしながら一緒にすすめていきます

家族みんなで、地域の特産品の特性について調べたり、話し合ったりして学びを深めました



スクールシップ

関わる人が共に学び合いながら一緒にすすめていきます

仲間と共に特産品の特性について調べ、センシングすることで、体験を通して新しい視点を身につけることができました

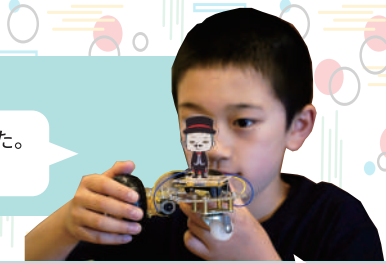


スクーマーズライフ

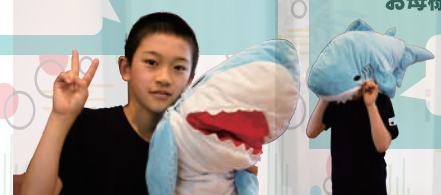
今回は、山梨のスクーマーズ
TERU くんインタビューしました！



クルーから50質問に答えてくれた！



ニックネームを教えてください！
TERUです！



お母様に質問です。TERU くんはどんな子ですか？
人を笑わせたりするのが好きな子です。

クラスではどのくらいのお友達と一緒に受けていますか？
1回のクラスに大体3~4人くらいですね。

普段お母様、お父様はスクューミーの活動に参加されていますか？
母父：(直接クラスと一緒に受けることはないのですが) TERU がスクューミーのクラスに参加する前後にスクューミーボードを持ってきて、つくったものを見せてくれます。

スクューミーで学んだことが普通の生活に影響を与えましたか？
はい、普通の生活の中でもアイデアが浮かぶようになったと思います！

周りにスクーマーズのお友だちはいますか？
近所にはいませんが、スクューミーワールドで仲良くなったお友だちがいます。



起業家精神と共に
つくる。

スクューミーに入ってどのくらいですか？
今年(2023年)の1月に入ったので、4ヶ月くらいになりました。

TERU くんがスクューミーに入って変わったと思うことは何かありますか？
母：これなんだろう？って積極的に聞いてくれます。すごく熱意があります。
父：スクューミーをやっている時以外にもアイデアがパッと出てくるようになって、それを教えてくれますね。
TERU くん：自分の引き出しが増えたと思う！

スクューミーを知ったキッカケは？
学校で配られたスクューミー大運動会のチラシを見て「なんだろう？」って興味を持ちました。



今までどんなセンサーを作りましたか？
宝探しゲームや、サメのぬいぐるみで目覚まし時計を作りました。あとスクューミーカー！

ぬいぐるみの目覚まし時計はスクューミーのイベント「課題解決チャレンジカップ2023」で最優秀賞を受賞していましたね！
どんなところを工夫しましたか？
好きな音楽を使ったのですが、音が速すぎたり遅かったり、変なところで切れないように秒数を設定するのが大変でした。

スクューミーでの一番の思い出は？
TERU くん：2つあって、スクューミーカーができたことと目覚まし時計で最優秀賞がとれたことです。
母：大運動会でスクューミーに出会った衝撃。プログラミング教室はたくさんありますが、つくって動かしてができるのがすごいなあと感動しました。
父：目覚まし時計をつくる時に音の設定で最初は上手く鳴らなかったですし、試行錯誤して鳴らしたい形で音が出た時がい出深いです。



今後スクューミーでどんなセンサーを作りたいですか？
もっと難しいプログラミングもできるようになって、生活の中で役立つ物を作りたいです。

将来の夢は？
プログラミングを使って、みんなが楽しめたり笑えるようなものを作りたいと思っています。

クルーに一言！
ハロークラス超楽しいです！
アイデアが多いととっても楽しい...



起業家精神と共に
つくる。

ご両親から TERU くんへ一言！
今まで通り、楽しんで頑張ってください！

ありがとうございました！
これからもいっしょにスクューミーを楽しみましょう！

中学校の事例

茅野市立北部中学校

長野県の茅野市立北部中学校で先生の困りごとを解決するためのセンサーをつくりました。インタビューから課題を見出し、解決するという実践的な学びの授業です。

起業家精神と共に
つくる。

学校の授業で利用した資料や、学習指導案、成果報告書などはこちらを読み取ることで確認することができます



教頭先生の困りごとをスクリーミーで解決

長野県の茅野市立北部中学校の3年生を対象に、学校の中で起こる課題を解決する授業を行いました。この授業は、技術家庭科の技術の時間で実施され、計6時間で行われました。教頭先生に学校生活で困っていることを実際にインタビューし、その困りごとを解決するためのセンサーをつくりました。生徒らは1年生の時からスクリーミーボードを使用しており、今回はインターネット通信が可能であるブラックボードを使い、より実践的で発展的な学びを行いました。

ストーブのつけっぱなしをアプリで見られるように

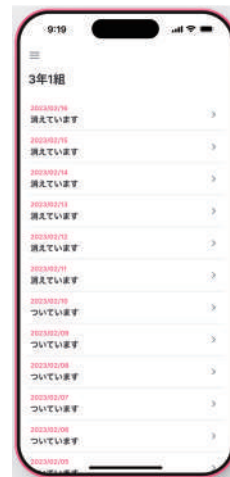
教頭先生へのインタビューから、生徒が下校した後にストーブのつけっぱなしがないかどうかを、全ての教室を見て回っていることを課題として挙げました。そして、教室のストーブがついているかどうかをアプリ上で確認できるような仕組みがあれば良いというアイデアを出しました。

課題を解決するために、ブラックボードを使い各教室のストーブ付近の温度データをスプレッドシートに書き出しました。そして、そのデータをスマートフォンで見ることができるようにするために、アプリを作成しました。その他にも、戸締りがしつかりとできているかどうかや電気の消し忘れがないかどうかを確認できるセンサーをつくった生徒もいました。それぞれが課題を主体的に見出し、それを解決するためのアイデアを具現化することができました。

教具として、教科学習でも活用できる

スクリーミーのセンサーは、生徒の学びを促進するための教具として、教科学習でも使うことができます。例えば、理科や技術科の授業では、生き物の生育について学ぶ単元があります。授業ではアサガオやメダカを育て、その生育条件やヒトとの相違点を学びます。その際に必要な温度や湿度、水温などをスクリーミーのセンサーで測定し、自動で表にまとめ、データを蓄積することが可能です。

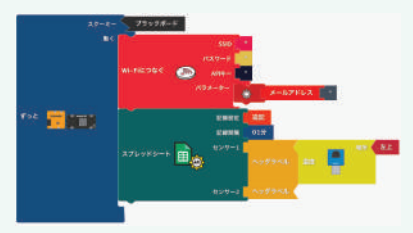
授業中や放課後など観察ができない時間にも測定することができます。より多くのデータを得ることは、深い考察につながります。また社会科で、縄文時代にセンサーがあったらどんな課題が解決できそうかを考え、つくるという授業もできます。縄文時代の人々の課題を解決することを通して、その時代の生活様式について理解することができます。さらに、現代社会も課題を見つけ解決していくことで発展しているという視点を獲得し、課題を解決したという経験から、主体的に社会に参画していくという態度も育まれます。このように教具としてスクリーミーを使うことで、教科学習において考察や学びを深めることができます。



Q 担当の先生に聞いてみました！
スクリーミーを使った授業の特長を教えてください。
A さい。

簡単だからこそ、議論が生まれる

スクリーミーの教材は、簡単にプログラミングができるということが特長です。インターネットにつないで温度や明るさなどのデータを取得し、スプレッドシートに書き込むという動きもブロックで感覚的にプログラミングをすることができます。簡単にセンサーをつくることもできるので、そのセンサーを改善することに時間を取ることができます。そのため生徒同士で議論が生まれ、一度で



このように、ブロックを組み合わせることで、感覚的にプログラミングができます。順序立てて組み合わせることで、プログラミング的思考も育まれます。

きあがったセンサーをより良くしていくとすると主体的な活動につながります。また議論を通して他の生徒の意見やアイデアに触れることで、新たな見方・考え方を身につけることができます。主体的・対話的で深い学びを実現するための1つの授業モデルとして、効果的なものであると言えるのではないでしょうか。



ブラックボードは、ネットワーク通信を行うことが可能です。そのため現在の時間を取得したり、LINEに通知を送ったりすることができます。これを使うと日常生活の様々な課題を解決することができます。例えば、子どもが家に帰ってきたことをセンサーが感知してLINEを送ることができます。この通知機能があると、親は安心することができます。このようにブラックボードを使うと、より実用的で発展的な課題解決を行うことができます。

高等学校の事例

山梨県立甲府南高等学校

山梨県立甲府南高等学校で学校生活を便利にするためのセンサーをつくりました。課題を見つけ、分析し、解決するという課題解決型の授業です。

起業家精神と共に つくる。

学校の授業で利用した資料や、学習指導案、成果報告書などはこちらを読み取ること確認することができます



身近な課題をテクノロジ で解決

2023年9月に山梨県立甲府南高等学校にて「学校内で起こる課題」を解決し、学校生活を便利にする授業を3日間行いました。スクーミーの使い方を学んだのちに、学校内を探索し、自分の力で課題を発見してもらいました。なぜそのような課題が起こってしまったのかという分析を行い、課題を解決するためのセンサーをグループで開発、発表しました。本授業には55名の生徒が参加し、主体的に取り組んでいました。

自ら課題を発見して、解決する

本授業は、1日3時間の授業を3日間という日程で計9時間で行いました。1日目は、エンジニアの方の講義でプログラミングに関する知識と技能を習得しました。2日目はセンサーを使って課題を解決する練習や、課題を分析して解決方法を考えるために必要なことについて学びました。そして学校の中の課題を見

つけ、分析し解決するためのセンサーを考えました。3日目は、センサーの開発とプレゼンテーション資料の作成を行い、課題解決の過程を発表しました。

今日では、従来の知識を蓄えることを中心とした教育ではなく、身につけた知識や技能を活かして課題を解決したり新たな価値を創造する教育が求められています。本授業では、習得した知識と技能を用いて身の回りの課題を仲間と共に解決していくというスタイルであり、実践的で協働的な学びを実現することができました。これはまさに、今の時代に求められている資質・能力を育成するために効果的な授業であったといえます。受講した生徒らには、今後自身の回りはもちろん地域の課題にも積極的に目を向け、解決していってほしいです。

時代にあったセンサーの開発も

新型コロナウイルス感染拡大に伴って教室に入る際にアルコール消毒をすることが決められている中で、

Q 授業内での生徒の様子や授業全体の感想を教えてください。

担当の先生に聞いてみました！

活き活きと主体的に取り組んでいました。

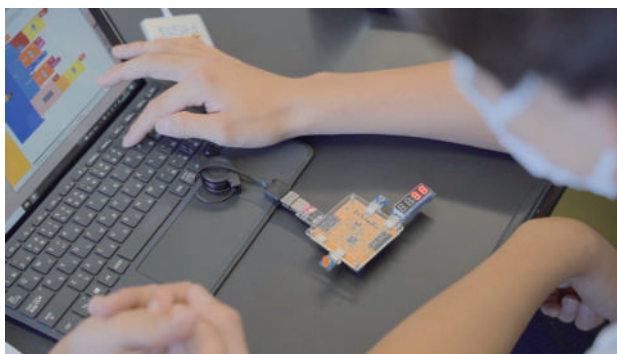
生徒が主体的に活き活きと取り組んでいる姿が印象的でした。自分たちのアイデアが目前で動くという経験、実際に課題を解決するという経験、それを発信するという経験は普段の授業ではなかなかできないものであり、とても貴重でした。ブロックで簡単にプログラミングができたことが、全員がスムーズに取り組めた大きな一因であったと思います。センサーを思い通りに動かそうとする過程で、プログラミング的思考も身についたのではないかと思います。また、今回はグループ内での役割がそれぞれあったので、責任を持って主体的に取り組むことができました。

我が校では2年生から自分で設定したテーマに沿った探究学習を行っています。1年生で身近な課題を見つけ実際に解決するという経験をしたことは来年度に活きると思います。来年度はデータを蓄積したり、アプリで成果を発信したりすることもやっていければと思っています。

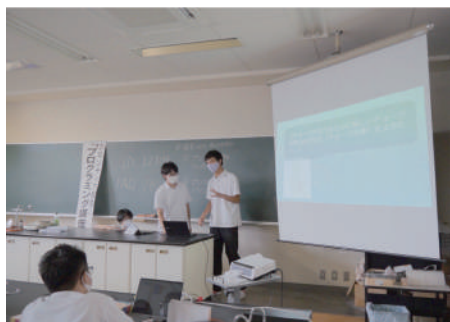
彼らには、学校の校訓である「開拓者精神」を持ち、いろいろな価値観を持った人と協働しながら世の中にある多くの課題を解決して欲しいと思います。そのような新しい価値を創造することができる人を育成するために、今回の授業は効果的であったと思います。



ついつい忘れてしまうという課題を解決しました。消毒をして教室に入ったらセンサーは反応しませんが、消毒をせずに教室に入った場合は音が鳴って注意してくれるという、高校生ならではの複雑なプログラムを用いた課題解決でした。このように社会でも使うことのできるようなセンサーがいくつも開発されました。



スクーミーは、子どもたちが自分でつくった作品を、自分の言葉にして発表する機会を大切にしています。それは、誰かのために、何かをつくり、他者に使ってもらい、それらのフィードバックを受け、さらに改善したものをつくる過程が重要な学びの1つであると考えているからです。また、これを機に、発表者同士の学び合いや仲間意識が醸成され、日常でのさらなる高め合いに発展していきます。



地域の高校生が主体となって、子どもたちに運動と学びの機会を提供

山梨県立甲府第一高等学校探究科2年生と都留文科大学の連携事業



Q
主催した高校生に聞いてみました！
自分自身がどのように成長したか教えてください。

高校生も社会に参画できるのだという自信ができました

普段の高校生活ではお会いすることのないメンターの方々には自分のやりたいことを伝えるという機会はとても貴重でした。企業様と協力してコンテンツを開発したり、イベントを開催したりした経験を通して、社会を見渡す視野が広がった気がします。さらに、高校生の自分たちでも社会に対してできることがあるのだという自信を身につけることができました。また、参加者が自分たちと同じ高校生だったこともあり、自分と同じ年代の仲間たちが頑張っている姿を見て、自分たちも負けていけないというモチベーションになりました。

起業家精神と共に つくる。



私たちは当初、コンテンツを実現する部分でうまくいかず悩んでいました。そこでスクーミーのセンサーに出会い、コンテンツの実現に向けて何度も議論を重ねました。最終的には納得のいくコンテンツを完成させることができ、イベントで子どもたちにも楽しんでもらえました。自分の「やりたい」が実現することの嬉しさを感じました。

地域の高校生と連携して「運動」をテーマにしたイベントを開催

2023年1月15日(日)に山梨県都留市にて、地域の高校生・大学生が連携した「スクーミーフェスタ」を開催しました。「自分でつくって、頭も身体も動かそう！」というコンセプトのもと、センサーを使った運動ロボットを用いて楽しく体を動かしました。ボールを投げて的に当てるストラックアウトやピンポン球で的を倒すピンポンゲーム、LEDの光る色によって勝敗が分かる早押しゲームなどを使って、子どもたちは夢中で運動をしていました。また、LEDの色によって走った歩数がわかるセンサーを用いた鬼ごっこを参加者全員で行い、会場全体で楽しく体を動かすことができました。本フェスタで初めて会った子どもたち同士と一緒に運動をしたり、プログラミングを体験したりできた有意義なイベントでした。

「遊び」を通して、学ぶ機会を

本フェスタで行ったコンテンツの一つである鬼ごっこは、山梨県の高生が取り組みました。彼らは、現代

の運動不足やそこから引き起こされる健康問題に課題を感じていました。そして、子どもからお年寄りまで幅広い年代の人が楽しく運動することができる鬼ごっこを考えました。そこで、スクーミーのボードやセンサーを使って、鬼ごっこにテクノロジを掛け合わせることで、誰でも楽しく鬼ごっこができ、健康でいられるというコンテンツの開発を始めました。

スクーミーのクルーと何度も話し合い、「走った歩数によってLEDの色が変わる」という動きのセンサーを開発しました。センサー開発は、彼ら自身がプログラミングを行い、何度も試行錯誤してつくりました。また、それを地域の子どもたちに使ってもらおうという実践を通して、ユーザーの反応を基にさらに良いコンテンツを開発することができました。

運動不足という社会課題を見出し、テクノロジを活用して解決していく。その中で、実践を通してPDCAサイクルを回す。まさに探究活動を通して、彼ら自身も新たなスキルや考え方を、課題を解決しようとする姿勢を身につけることができ、大きく成長したのではないかと思います。



学んだプログラミングスキルを生かして、子どもたちが運動もできて楽しめるようなゲームをつくりました。



歩数によってLEDの色が変わるセンサーを使って鬼ごっこを行いました。100歩走ることにもらえる冠の数を競いました。

月刊スクーミーKNOCK!の紹介

株式会社スクーミー社が毎月発行している月刊誌です。
弊社のサービスは、オンラインだけではなく、図書館や会議室、コワーキングスペース、デパートなどなど、オフラインでの場所の体験や活動も推進しています。スクーミーボードを手にとってみんなでつくる・使う世界をつくりたいという思いから、月刊誌をまず手にとってもらえるところからはじめるために月刊誌を作成しております。
ぜひ、教育関係者問わず、多くの企業の代表や大学の教授、学校の先生にインタビューをしております。
ぜひ読んでいただければと思います。

各号の電子版はこちらからみることができます

フリーマガジン
月刊スクーミーノック!! vol.7 特別号
SchomMy®
KNOCK!!

家族で、「つくる」を楽しむ。好きになる。

大阪でみんなと つくる。

すべての人にデジタル力が必要とされる時代 一般社団法人 システム人材育成協会 代表理事 藤野利博 氏
チャレンジする人たちの成長を支えたい 公益財団法人 大阪産業局 ソフト産業推進部 部長 藤野利博 氏



フリーマガジン
月刊スクーミーノック!! vol.5
SchomMy®
KNOCK!!

家族で、「つくる」を楽しむ。好きになる。

課題解決のために つくる。

【特集】Y-NEXT2023 チャレンジ者集！ 山形県 産業労働部 スタートアップ・経営支援課 課長 清水優一 様からのメッセージ
これからの社会で生きていく子どもたちに求められる能力 シンファック株式会社 代表取締役社長 戸田誠司 様からのコメント



フリーマガジン
月刊スクーミーノック!! vol.3
SchomMy®
KNOCK!!

家族で、「つくる」を楽しむ。好きになる。

学びたいを つくる。

子どもの「好き」を見つける方法 株式会社 D-net 代表取締役 山崎 伸 氏
バーナードアップクラスを通してつくる！ 社会に対する具体的なイメージ 株式会社 ヴィ・シー・シー 代表取締役 氏



フリーマガジン
月刊スクーミーノック!! vol.1
SchomMy®
KNOCK!!

家族で、「つくる」を楽しむ。好きになる。

新しい価値を つくる。

自分がほしいものは自分でつくる世界観
これからの社会で生きていく子どもたちに求められる能力 シンファック株式会社 代表取締役社長 戸田誠司 氏



フリーマガジン
月刊スクーミーノック!! vol.8
SchomMy®
KNOCK!!

家族で、「つくる」を楽しむ。好きになる。

地域と共に つくる。

すべての人にデジタル力が必要とされる時代 一般社団法人 システム人材育成協会 代表理事 藤野利博 氏
地元本庄市をもっと笑顔溢れるまちにするために NPO 法人 BALI 理事長 代表 藤野利博 氏、副代表 藤野利博 氏

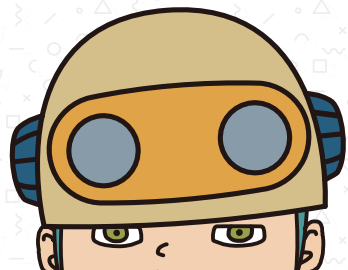


フリーマガジン
月刊スクーミーノック!! vol.6 特別号
SchomMy®
KNOCK!!

家族で、「つくる」を楽しむ。好きになる。

新しい自分を つくる。

知的な教育で育ち シンファック株式会社 代表取締役社長 戸田誠司 氏
これからの社会を生きていく子どもたちを育てる教育とは 山形大学教育学部 准教授 三井一博 氏



フリーマガジン
月刊スクーミーノック!! vol.4 特別号
SchomMy®
KNOCK!!

家族で、「つくる」を楽しむ。好きになる。

新しい学びを つくる。

小学校授業「学校のナゾ×スクーミー」報告 山形県東北村立広野小学校校長 藤野利博 氏 (執筆・フクダケン吉 氏)
これからの社会を生きていく子どもたちを育てる教育とは？ 山形大学教育学部准教授・博士 三井一博 氏



フリーマガジン
月刊スクーミーノック!! vol.2
SchomMy®
KNOCK!!

家族で、「つくる」を楽しむ。好きになる。

仲間と共に つくる。

「いっしょにつくる」楽しさの先にあるもの
子どもたちが楽しく「自分」を表現できる世界を目指して



◇必須条件◇

ノートパソコンを持っている方
インターネット環境で作業をすることができる方
Microsoft PowerPointを契約している方

◇歓迎要件◇

大学や専門学校で、教育について学んでいる方
教育免許を取得しようとしている方

◇スクーミークラスについて◇

スクーミーでは、学校でいう「授業」を「クラス」と呼んでいます。
クラスではスペシャリティ(得意分野)を持ったスクーミークルーが「知る・考える・つくる」の3項目を意識した学びを提供するとともに、子どもたちの興味や関心を広げたり、やりたいことを応援・手助けする時間と位置づけています。
プログラミングのスキルだけでなく、科学や歴史のフシギについて調べたり、家の中で起こる課題を解決するようなクラスを展開しています。
そのほかにも、企業様とのコラボで行う授業や、学校や自治体でのクラスを行っています。

◇インターンの業務内容◇

[クラス開発業務]

「クラス」の開発を行います。クラスの流れを考えたり、スライドを作成したりします。
スクーミーワールド内でのクラスはもちろん、全国各地の学校や自治体で行うものもつくります。

[クラス実施業務]

作成したクラスを子どもたちに向けて行います。
科学や歴史、エンジニアリングの分野について面白く楽しく伝えます。

◇働く環境について◇

[バーチャルオフィスでの働き]

業務をリモートで行うことができます。弊社がサービス提供しているスクーミーワールドというメタバース空間で働くこともできます。

[学生のために柔軟なシフト体制を実現]

学業と両立できるようひとりひとりと相談してシフトを決めます。
勤務時間帯も含め都度事前にご相談いただければ変更可能です。
1週間のうち数日、1日3時間以上の勤務をお願いします。
※出勤日は別途相談 ※日曜日は原則休み

[内定直結型インターン]

インターンは新卒での入社のお試し期間とも考えております。
卒業後はスクーミーへの入社を検討するなら、社風や仕事の流れをしっかりと体感できるのでミスマッチなくファーストキャリアをスタートすることも大きなメリットです。
※内定は確約でなく、インターンを通して検討させていただきます。

起業家精神と共に つくる。



クラス開発クルー インターンシップ募集

申し込みフォーム

お申し込みは
こちらのQRコードから
お願いいたします。



- 身につくスキル -

- ・授業をわかりやすく面白く行うスキル
- ・コミュニケーション能力
- ・計画力
- ・企画力
- ・子どもの目線に立って授業を考える力
- ・教育現場での指導経験
- ・オンラインで働くためのツールを使いこなす力
- ・プログラミングなどITに関する知識や技術



起業家精神と共に つくる。

Schoomy BEST SHOT vol.9 小学校の出張授業にて。

「学校生活で、 使わなくなったものたちが大変身。」

発行 株式会社スクーミー
企画・取材 黒澤駿 青嶋中菜 松嶋隆
デザイン 折井穂乃花 佐野里帆
写真 マイセンド株式会社
初版 2023年9月2日

《アーカイブを無料公開しています》
これまでの月刊スクーミーの記事は、
すべて無料で電子版で見ることができます。

《スクーミーに関する問い合わせ》
お問合せ先 go@schoomy.com

※右側のQRコードからアクセスしてください。

